

水田の水管理にすぐれた装置のご紹介

2020年3月15日

株式会社 田牧ファームスジャパン

イネの栽培管理のために圃場の見回りは、欠かすことのできない作業です。圃場に行く前に水田の水の深さがわかれば、水田に行くタイミングとそこで必要な作業を考え、準備をする事ができます。水田に行く前に計画を立て、効率良い作業をする事ができます。

低コストコメ作り技術の開発と普及を目指す、株式会社 田牧ファームスジャパンが開発した「水田センサー」をご紹介します。

機能：

水田に立てる「水田センサー」の水の深さを測定するセンサーが、毎日1回水田の水の深さを測定しそのデータを、この装置に内蔵した通信機能を使って、事前に登録したスマホにメールで送ります。利用者様には「水田センサー」が毎日データを送ってくる時間には、携帯電話で水田の水の深さを知る事ができます。

費用：

水田センサーと通信機能を内蔵した装置、「水田センサー」の本体は、1台35,000円（税別・送料別）でご購入いただけます。

ご購入予約をいただいたお客様には、通信SIM（3G/LTE）をご購入いただく装置に組み込み、お客様の受信携帯番号をプログラムして出荷します。日本国内の携帯電波が届く地域では、装置からデータが送信され、それぞれの携帯電話でデータを受信する事ができます。

この通信SIMの契約は、年間予想される水位測定期間中（4月15日から8月15日までの4カ月間）通信できるよう、株式会社田牧ファームスジャパンが通信会社と一括契約をして、使用料を支払います。利用者様には1年間（1栽培シーズン）は無料でこの装置を使える事になります。電源は乾電池（単3x3本）を水田センサーと通信装置を動かす電源として使います。通常の稼働で約半年（計算値）は稼働予定です。使用開始後2カ月を経過したところに、新しい乾電池を入れ替えていただく事で、イネ栽培1シーズン使えるようになります。

大きな作業時間の節約：

自宅あるいは事務所から水田に水の状態確認に行く時間が節約できます。出先からでも携帯電話で水田の水の深さを確認し、必要な作業の計画を立てて実施する事ができます。予定通りの深さであれば、水田に行って確認の必要はありません。水管理の時間が短縮できますので、一人当たりの栽培管理面積の拡大が可能になり、コメ栽培規模の拡大ができます。

今後の機能拡張：

今回の装置は機能を水位測定と水位データ送信機能のみに限定しました。今後は「水田センサー」を圃場データ収集とデータ通信のベース装置として位置づけ、これに気象データ測定と送信、カメラモジュールの取り付けによる撮影画像を送信し、AIイネ生育診断ソフトを使って、栽培管理に役立てるように計画しております。